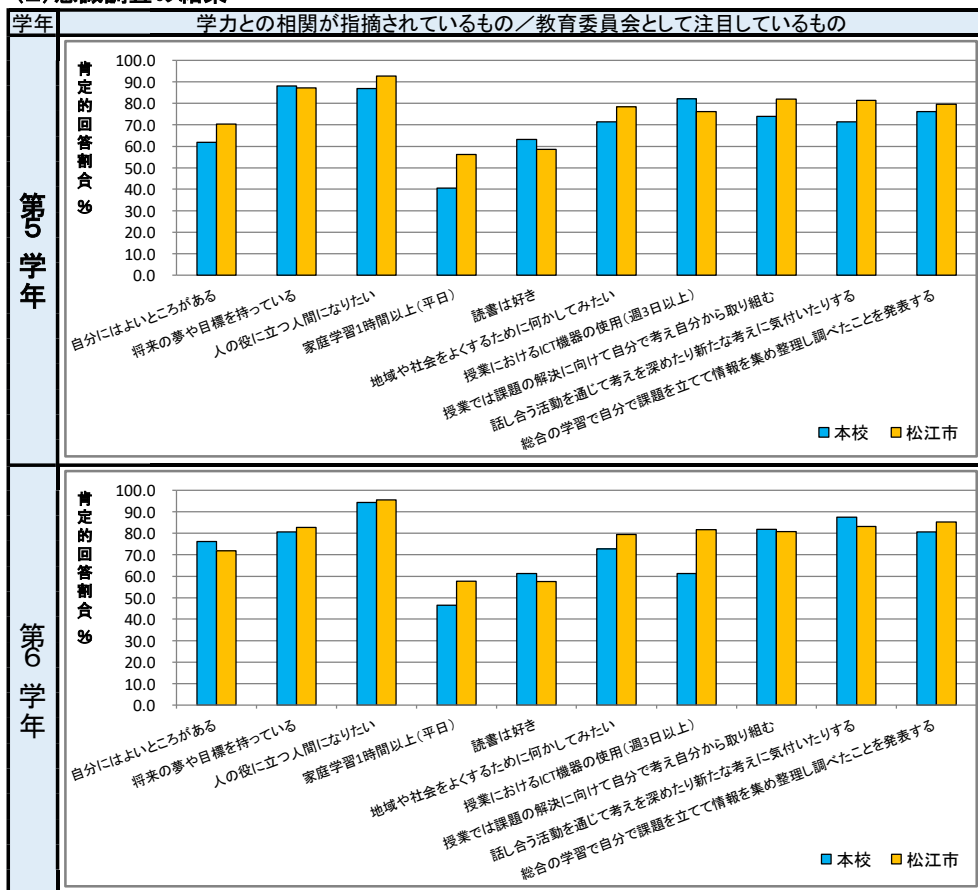


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(●)
第5学年	国語	<p>成果 ○「話す/聞く」分野の項目で全国推定値に近い正答率である。国語の授業を中心とした「話し合う」学習活動の成果が表れている。</p> <p>課題 ●「読み取る」力に課題がある。特に、文章の要点をつかみながら読み進めることに課題が見られる。 ●「知・技」「思・判・表」ともに全国値を大きく下回っている。</p>	<p>・説明的文章や物語、図表やグラフなどから、情報を読み取る学習活動の機会を設ける。 ・単元全体の学習に見通しをもって取り組ませ、明確なねらいをもって読み進めることができるよう指導を工夫する。 ・朝のモジュール学習に読書を取り入れ、静かに落ち着いて本を読む習慣を身に付けさせる。</p>
	算数	<p>成果 ○「整数のなかま分け」など、基本的な数の大小比較ができており、全国推定値に近い結果となっている。</p> <p>課題 ●全ての項目において全国推定値を下回っていることから、学年全体の算数指導において工夫改善が求められる。特に、「数と計算」や「図形」の領域に関する課題が大きい。</p>	<p>・基礎学力の向上を図るため、短時間に集中して計算力を高めるドリル学習を実施する。 ・レディネスを把握し、既習事項を十分に確認してから各単元の学習に取り組ませる。 ・TTや習熟度別指導を継続し、細やかな支援を実施する。 ・「図形」では、実際に具体物を操作したり、ICTを活用したりすることで理解を深める。</p>
第6学年	国語	<p>成果 ○「書くこと」の正答率は、全国推定値と比較して差が小さく、他の領域や内容よりは学力をつけている。</p> <p>課題 ●全体的に正答率が低い。特に、「読むこと」「言葉」の正答率が低く課題が大きい。</p>	<p>・文章や図表からの「読み取り」を丁寧に行う授業を継続する。 ・意味調べや既習の言語表現を活用する授業を充実させる。</p>
	算数	<p>成果 ○「知識・技能」について全国推定値と大きな差はなく、基本的な学力が身につけている。</p> <p>課題 ●「思考・判断・表現」の正答率が全国推定値と比較して大きく下回っており、課題が大きい。</p>	<p>・基礎的な計算力が身につけているため、それを土台にして思考を伴う課題にも粘り強く取り組むことができるよう、指導の工夫と個に応じた支援を継続する。</p>

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○:強み/伸ばしたい点 について
課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

○授業において、ICT機器を活用することに慣れ親しんでいる。
○将来の夢や目標をもって生活している児童がとても多い。
●家庭での学習時間がとても少ない。主体的な学びを促進する指導を検討・試行する。

【第6学年】

○「話し合う」学習活動の充実から、考えを深めたり、他者との対話から新たな発見を実感したりしている児童が多い。
○自己肯定感が高く、自分にはよいところがあると回答した児童が多い。
●家庭での学習時間がとても少ない。主体的な学びを促進する指導を検討・試行する。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	85	名
第6学年	87	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示